

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472400340
法人名	株式会社 渋谷
事業所名	グループホーム さかもと
所在地 (電話番号)	宮城県亘理郡山元町坂元字北谷地29-1 (電話) 0223-38-3110

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 3 月 14 日

## 【情報提供票より】(20年3月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23人	常勤 21 人, 非常勤	人, 常勤換算 16.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( ) 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 180,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有/無 退去時に返却	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.72 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅野病院・宮城病院・松本歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホーム、「さかもと」の二つのユニット名が「うみ」「やま」とあるように、県南端の海岸沿いに位置し、ホームの居間から見えるのは見事な雑木林である。広い敷地で、冬暖かく、夏は涼しい良い環境にある。職員は少しでも利用者の役に立とうとしている姿がホーム全体にみちみちており、更に東京センター方式を取り入れ、入居者に対する理解を深めれば、介護のスキルアップも大いに期待できる。管理者は現在の弱点を隠さず、直視している様子にも真摯さが感じとれる。これからは運営推進会議をより活用するなどして、地域から得る情報、知恵も付け加え、利用者には生きがいを、職員には仕事のやりがいを感じとれるホームにしていきたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題は3項目あり、①ベッドの高さは適切に調節されていた。②介護計画への意見の聞き取り、反映は会えない家族との連絡についても工夫して対応し改善されている。③利用者のペースの尊重は、ユニットのケア会議で事例毎に検討し、実施している。尚、前回外部評価後に「東京センター方式」を取り入れている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、職員が項目をどう理解するかを話し合い意見を述べ、リーダーがとりまとめるという形で作成している。項目の理解という作業の中で、日常のケアについて気付かされたことがあったとしているが、外部評価と併せて改善の資料としていただきたい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホーム施設長の交代等があり、2ヶ月に一度の定期開催とはならなかった。新年度からは2ヶ月に一度の定期開催を原則とするとしている。その際、防災訓練等については、地域の協力を待つだけでなく、ホームの自家発電装置の地域活用など、双方向的に話し合える会議になるように努力すると話しているので期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に金銭管理等の報告やケア担当職員による利用者の状況報告を行っている。面会に来にくい家族には、ホーム便りや担当者からの「便り」も同封している。家族はホームに対して本音でものを言うことをためらうものである。職員はそのことを念頭において、家族からの聞き取り手段を工夫し、努力する必要がある。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の芋煮会や、小学校の学習発表会に招かれ参加している。町内会に加入し、地区の清掃活動も一緒に行っており、近所の商店とは買物を通して馴染みとなっている。職員の子供である幼児とそのお兄ちゃんはホームのマスコットの存在であるが、成長と共に近所の子供達との接点となり、広い敷地内での恵まれた環境が遊び場にもなることを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念である「目配り 気配り 心配り」は、それまでの長い文章を日常の介護作業の心得として、より適切なものとして改訂したものである。しかし、地域密着型サービスとして地域との関係強化が重視される今日、そのことも盛り込んだ理念を作成されることを期待したい。	○	ホームでは、地域密着型サービスに合った地域との支え合いを重視した理念を作成したいとしている。その際、運営推進会議や家族の意見を取り入れ、職員全員による検討会など作成経過を大切にしていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議やケースカンファレンスの時、理念を振り返りながら検討している。「やまユニット」では新たにつけ加えた理念も掲げている。新年度には地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域との関係強化を謳った新しい理念を作成しているとのことで、その際には全職員が関わっていただきたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の芋煮会や、小学校の学習発表会などに参加している。町内会に加入し地区の清掃活動も一緒に行なっている。隣近所の商店とは利用を通して馴染みとなっている。職員の子供である幼児とそのお兄ちゃんは、ホームのマスコットの存在であるが、成長と共に近所の子供たちとの接点となることが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員がユニット毎に項目をどう理解するかを話し合い、意見を述べ、リーダーがまとめる形で作成された。前回の外部評価について、未達成と思われる件もあるが、評価の意義に対する姿勢は認められる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームには自家発電装置があるので、災害時での活用で地域に役立てたいなどの提案を行なっている。しかし定期的な開催には至っていない。会議での中味も双方向的な会議となるよう一考を要する。	○	会議開催の回数については、基準省令を再確認し、2ヶ月に一度定期的に開催していただきたい。議題としてはサービスについての内部評価、外部評価について取り上げる他、委員の方々に老人会や婦人会、更には小、中学生が出入りできる橋渡しをお願いするなど、運営推進会議の存在感を高めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との間では、介護保険制度の改正以来、情報の共有について以前より緊密になった。入居希望者(待機者)などについて連絡を取り合っている。公民館主催の作品展、芸能祭に参加している。今後地域ケア会議へは、積極的に参加したいとしているので期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理の報告については、請求書と共に送付している。その際、ホーム便りやケア担当職員による入居者の状況報告も同封している。面会時にはその都度、暮らしぶりを話しているが、家族は職員の異動などについても知りたいようである。	○	面会の少ない家族については、電話で連絡をとるとしているが、簡単ではないようである。入居者に孤立感を持たせないよう他の手段を講じて、家族の様子を入居者に知らせることが出来るように、努力していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情や意見、要望については、気軽に出してもらえる機会を作ることに努めている。自己評価に年間の苦情の件数をユニット毎に発表している。出された苦情、意見は運営者に報告し、職員全体で検討して対応や改善策を実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者をなるべく少なくするよう努力しているが、職員の家族の都合などで発生する場合がある。急な離職で対応に遅れをとる場合など、入居者に不穏がみられるケースもある。入居者に対するダメージを防ぐ手立てを予め立てておく必要がある。	○	職員の異動については、家族の関心も高い事柄なので、ホームが離職者を最小限に抑える努力をしていることを、家族に伝える必要がある。入居者への影響については、引き継ぎの日数を作るなどして、入居者によく説明し、理解していただく努力が必要である。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会主催の講習会、実践報告会や町主催の同業者の地域ケア会議には出席している。しかし、職員の勤務体制の関係から計画的な研修への参加に難点があったが、デイサービスとも協力し、積極的に研修参加に取り組むとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修会等に出席している。地域内の関係では、地域内の介護施設である特養、老健、通所、グループホームが山元町の主催で「地域ケア会議」を開催し、事例検討や交流も行なっており、メンバーとして参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが入居希望者の自宅を訪問し、本人、家族の話聞き、ホームを理解してもらうよう努めている。また、入居開始前に、家族と共に訪問してもらい、話しをしたり、ホームで入居者の暮らしぶりを見学してもらうなどして馴染んでもらってから、入居開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の得意分野について熟知しており、人観にわたる話もしている。入居者に教えてもらうという姿勢も自然で謙虚である。東京センター方式の採用から日が浅いが、その謙虚な素質をチームケアに生かしていただきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いが具体的に言われなくとも、察しがつくということにはなっている。その上で更に本人がやりたいことを把握できるように、家族から聞いたり、ケース記録を検討したりしている。特に最近取り入れた東京センター方式の学習を、OJT(現場研修)と組み合わせて実効のあがるものになるよう期待したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	帰宅願望が強く、不穏になることもある入居者に対するケアについて、ユニット会議で話し合い、馴染みのものを入れてみようとの提案があり、ソファを置いてみたら、やや穏やかになったなどの例があり、チームケアの大切さを実感している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	これまでケアカンファレンスを行ないながら、現状に即したケアプランを作成してきたが、東京センター方式に変更したので、各シートの活用により入居者の変化などの読み取りは詳細になり、対応も早くできるようになった。当面は東京センター方式の習熟に全力をそそぐこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院に関しては医師への連絡事項がある時や、本人、家族から依頼された時は職員が同行している。墓参りについても家族の都合によっては、お花などをホームで用意して職員が同行している。同系列で連携している通所介護施設があるので活用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの関係する医療機関はホーム医の他に4か所あり、訪問看護ステーションとも契約している。また、入居前のかかりつけ医での受診を継続している入居者も居り、家族とは通院方法、受診後の報告についても話し合い合意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書で、本人、家族の同意があれば、看取り介護の用意のあることを明らかにしている。「看取りに関する方針」の中で、担当医師及び看護体制を明確にしている。看取り介護の実施について、ホームの各職種毎の具体的役割について、文章化されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声掛けは自然であり、名前を呼ぶ時も温かみがかもっている。食事介助もさりげなく行われていた。職員の「その人をよく知ろう」という姿勢が入居者の尊厳につながっていることが感じとれた。個人情報にわたる記録書類等については、きちんと保管場所に収められていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは一応決まっているが、本人のペースは必ずしも昨日と同じでよいとは限らない。現時点での本人の様子をくみ取って、順序を変えるなどして対応している。職員はあくまで、入居者が今何を求めているのか、何がしたいのかを思いやって本人のペースを大切にケアすることを心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入、献立については、外注している。しかし、近所の農家からいただく野菜は、みそ汁に入れるなどの他、納豆、白菜漬、海苔の佃煮、とろろ汁、梅干しなどを追加している。調理は職員が行ない、刻み方や硬さについても、本人に合うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により午前中でも入浴している。気の合う同士と一緒に入り楽しんだり、それぞれに合わせて入浴を支援し、入りたがらない人は娘さんに来てもらい声がけしてもらうなど工夫し対応している。施設の全ての水は軟水で肌にやさしく、風呂上がりには肌がすべすべすると言っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は掃除や洗濯物の取り込み、たたみ、裁縫、畑仕事などそれぞれに役割をもって生活している。職員の子供はホームのマスコットの存在だが、子供のお気に入りのおじいさんは、一緒に遊ぶことが何よりの楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リフト付きの大型車両があり、近辺へのドライブは、天神沼の白鳥見物、八重垣神社、亘理公園の遊歩道での散歩などである。ドライブの帰りや、通院時の帰りがてら買物をしたりしている。近辺の散歩は海に向っての行き来や、ホームを一週することであり、月に3回から5回自宅に帰る人もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関に鍵をかけることが、入居者の心に身体拘束と同じような弊害を与えることを心得ている。センサーは設置しているが、入居者の外出の癖、日頃の言動に注意し見守りすることによって鍵掛けはせず過ごしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した防災訓練を消防署の協力を得て実施している。その際、夜間を想定した訓練も行なっている。消防署間で消火通報専用電話が3か所設置されている。ホームには自家発電設備があるので、運営推進会議を通じてそのことを地域にアピールしたいとしているので期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材購入時についてくる献立表と共に、ビタミンや塩分など一品毎にカロリーや成分が表示されている。調理は職員が行なうので、身体状況に合わせて塩分などの加減もしている。水分補給については、チェック表により摂取量を把握しながら行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明や日差しは良好であり、換気、温度管理も行われていた。暦や時計の位置も適切である。テレビの音や、職員の声がけのトーンも適切で、穏やかでゆっくりした雰囲気醸し出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれの部屋に馴染みの品を持ち込んでもらえるように、家族に働き掛けている。必ずしも全て希望通りにはいかないが、帰宅願望の強かった入居者が、馴染みのソファを持ち込み、部屋で使用するようになって、不穏が少なくなった例もあり、職員は自信を深めている。今後、より一層の工夫、対応をお願いしたい。		